

東高通信

令和4年度 7・8月号

日	曜	学校行事等	生徒会・部活動関係	日	曜	学校行事等	生徒会・部活動関係
7月				6	土		
13	水		陸上県総体(~17日)	7	日		吹奏楽コンクール県大会
14	木			8	月	3年学習会①(国数英)	県高校書道席書大会 (~9日、本校)
15	金			9	火	3年学習会②(国数英)	
16	土		F1リーグ、F3リーグ 吹奏楽コンクール県北大大会 卓球県総体(~18日)	10	水	3年学習会③(国数英)	
17	日			11	木	山の日	
18	月	海の日	F3リーグ	12	金	学校閉庁日①	
19	火	終業式 表彰伝達式		13	土		
20	水	夏期課外①		14	日		
21	木	夏期課外②		15	月	学校閉庁日②	
22	金	夏期課外③		16	火	学校閉庁日③	
23	土		F3リーグ	17	水	夏期課外⑥	
24	日			18	木	夏期課外⑦	
25	月	夏期課外④		19	金	夏期課外⑧ 全統記述(3年~20日)	県刻字協会展 (~21日、コラッセ)
26	火	夏期課外⑤		20	土		
27	水	3年課外Ⅰ(理社) 東高見学会①		21	日		
28	木	3年課外Ⅱ 東高見学会②		22	月		
29	金	3年課外Ⅲ		23	火	始業式、表彰伝達式 実力テスト2年	
30	土		県北JRCトレーニングセンター(~31日)	24	水	実力テスト1・2年	
31	日			25	木		
8月				26	金		野球秋季支部大会 陸上新人地区(~28日) 合唱コンクール県大会
1	月	3年夏期課外Ⅳ(国数英)	陸上全国高校総体 (~5日、徳島) 美術全国総文祭 (~4日、東京) 山岳夏合宿 (~3日、檜枝岐)	27	土		
2	火	3年夏期課外Ⅴ	書道全国総文祭 (~3日、東京)	28	日		
3	水	3年夏期課外Ⅵ		29	月	学習時間調査(~4日)	
4	木	3年夏期課外Ⅶ		30	火		野球秋季支部大会(~9/4)
5	金	3年夏期課外Ⅷ 全統共通3年(~6日)	県南サマーテニスフェスティバル (~7日、須賀川)	31	水		

「竹のようにしなやかに」

教頭 名嶋 明宏

竹は、自分の幹をしっかりと支えるために、たくさんの節を作っています。そして、地下茎という根で、隣の竹と繋がっていて、お互いに支えています。絆を持った強い仲間たちと結びついています。

竹は、種が地上から芽を出すまでに長い年月がかかります。最初の4年間は目に見える成長はなく、地下茎を張り巡らせ、それを土台にして、5年目ようやく地上から芽を出します。しかも、芽を出した筍(たけのこ)は1日に1メートルぐらい伸びることもあり、わずか6週間で約30メートルの高さの丈夫な竹に成長します。

竹は、多くの節と見えない地下茎で結びついている仲間のおかげで、強い風が吹いても、重い雪が葉に載っていても、しなやかに揺れ、やわらかく曲がるが、なかなか折れない強い力を持ちます。

皆さんの学習の成果が表れるのも、竹の成長に似ていると思うのです。

それは、短期間で急成長を遂げるように見えることでも、実は高校入学時から今までに頑張ってきた見えない努力や、竹の成長と同じように、長い根を張り巡らす時期があると思うからです。

そして、植物の中にも、旬と開花の時期に違いがあるように、人にもそれぞれ成果が表れる時期が違います。しかし、花を身につける植物がみごとに開花させるのと同じように、努力している人は、必ず良い結果または最善の結果が得られるはずです。

私は、東高の皆さんが、焦らず、慌てず、諦めずに、同じ目標を持った仲間たちと最後まで竹の地下茎のように強い絆で結ばれ、支え合い、自分らしく、伸び伸びと成長していくとともに、困難という風が吹き、それが自身にのし掛かってきても、竹の節のように柔軟さを持ちながら、決して折れることのないしなやかな強さを持ち、幸せな人生を送るために、生き抜く力を身につけ、進路実現に向かって頑張っていく人になると信じ、皆さんのことを応援していきたいと思います。



「ロンドンの思い出」

浜田 敬子(英語)

“When a man is tired of London, he is tired of life; for there is in London all that life can afford.”

これはイギリスの文学者、サミュエル・ジョンソンの言葉で、「ロンドンに飽きた者は人生に飽きた者だ。ロンドンには人生が与えるもの全てがあるから」という意味です。大学時代ロンドン大学クイーンメアリーカレッジに一年間留学していた私にとって、とても納得できる言葉です。それほど、ロンドンでの一年間は忘れられない思い出です。

ロンドンに住み始めた初めの頃は、現地人の英語のスピードについていくことができず、相手が何を話しているのか全く理解できませんでした。大学の講義やディスカッションだけでなく、スーパーでの買い物など生活の些細なことにも不自由さを感じましたが、3カ月を過ぎたあたりから徐々に英語が理解できるようになり、そのうち現地の友人とパブに行ったり、会話のなかで軽くジョークを言ったりすることができるようになりました。講義はばっちり！とは言えませんでした。毎週一冊文学作品を読むことが課題だったので、必死で読んで必死で講義についていきました。学生寮では、シンガポール、フィンランド、フランス、イギリス(インド系)、そして日本とそれぞれ出身が異なる5人が1つのキッチンを共有していたため、世界各国の料理が調理されていてちょっとした異文化交流が日々行われました。お正月に日本から送ってもらったお餅をフランス人のジャスミンに勧めたら、“Oh, no thank you!”とはっきり断られた時は、少しだけショックでしたが。ちなみに、フィンランド人のミンナが知っていた日本語は、「オタク」でした。

そんなキャンパスライフの中で決定的に日本と違っていたことが、同級生の中に60歳のジュリアがいたことです。彼女はずっと看護師として働いていましたが、定年退職を機に「もう一度人生を楽しみたい」と思い、大学に入学したそうです。イギリスでは珍しいことではないそうで、彼女の存在は周囲に自然に受け入れられていました。私と彼女はとても親しくなり、一緒に講義を受けたり、課題で読んだ文学作品に関連するイギリスの歴史や文化について教えてもらったり、イギリス中部への旅行に一緒に出掛けたりしました。

キャンパスの外、ロンドンの街中も、欧米人だけでなく、インド系やアフリカ系、アジア系や中東からの移民など様々な人種の人々が行き交っていて、とても刺激的でした。英語にどっぷり浸かり、様々な人種の人々と交流できたロンドンでの一年間は、世界の多様性に触れることができたとても貴重な経験でした。

「幅について」

和田 真衣(理科)

入学して三カ月ほどたちましたが1年生の皆さんは学校に慣れてきたでしょうか。期待と不安の胸の高鳴りが静まり、部活と勉強と考査で疲れてないでしょうか。授業が本格的に進み始め、焦っていないでしょうか。授業は楽しいでしょうか。勉強を楽しむことは出来ているでしょうか。「何を言っているかわからない」「難しいから、楽しくないから、勉強や課題はやらない」とはなっていないでしょうか。

では、「楽しい」とは何でしょうか。「楽しい」という感情はどのような状況下で生まれやすいと思いますか。たとえば、楽しい場所といえばディズニーシーがあります。一度は行きたい夢の国ですね。また、出不精の人はクーラーの効いた部屋でスマホで遊ぶことが楽しいでしょう。スマホは楽しいけど、勉強は楽しくないになってませんか。

もし、勉強が楽しくないと思っている人が居たら少しだけ「楽しい」の幅を広げて欲しいと思います。高校の授業は専門性が高くなります。その分「何を言っているかわからない」「難しい」という気持ちになりやすいかもしれません。勉強は楽しくない。スマホでゲームをしていた方が楽しい。と思考停止するのは勿体ないです。「楽しい」には、「わからないけど興味がひかれる」「なんか面白い」などがあると思います。だから、分からなくてもよいです。なにか勉強に対して引っ掛かりを作ってほしいと思います。「楽しむ気持ちがないと楽しめない」と大変お世話になった教頭先生(当時)が仰っていた言葉が今でも深く刺さっています。たぶん、この言葉を高校生の頃に聞いても、何言ってんだ？ぐらいの感想しか持ちませんし、次の日には忘れてしまうと思います。言葉が刺さるのは、自分が変わり幅ができたからだと思います。

勉強も同じだと思います。まずは、自分から引っ掛かり作れるように変わっていきましょう。自分で幅を大きくしていきましょう。これから暑くて長い夏、それが終わると最も長い2学期が始まります。

勉強に対してモチベーションが下がることもあるかもしれません。

その時に、幅があれば少しは前向きに勉強に取り組めるかもしれません。この夏は幅を広げる夏にしていきましょう。

夏の課外、それから2学期一緒に頑張っていきましょう。

